

研究・調査報告書

報告書番号	担当
9 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The association of ADH and ALDH gene variants with alcohol drinking habits and cardiovascular disease risk factors.</p> <p>ADH・ALDH 遺伝子と飲酒習慣、心血管病のリスクファクターの関係について</p>	
執筆者	
Husemoen LL, Fenger M, Friedrich N, Tolstrup JS, Beenfeldt Fredriksen S, Linneberg A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2008 Nov;32(11):1984-91. Epub 2008 Sep 6.	
キーワード	
ADH、ALDH、遺伝子、アルコール、飲酒習慣、心血管病、疫学	
要 旨	
<p>背景： エタノール代謝の遺伝的多様性は飲酒習慣や飲酒の健康効果に対する感性に影響しているかもしれない。このような影響は飲酒の健康効果を疫学的に調査する際に暴露・疾病関係のバイアスになりやすい。アルコール脱水素酵素(ADH)、アルデヒド脱水素酵素(ALDH)の遺伝的多型と飲酒習慣・飲酒暴露時のbiomarkers・心血管病のリスクファクターとの関連について白人を対象に調査した。</p> <p>方法： 対象者は1,216名のデンマーク人男性・女性、年齢15-77歳、1998年に検診に参加したもの。検診には自己回答式質問紙(飲酒習慣)、身体診察(血圧)、多数の血液検査(ALT,MCV,脂質)が含まれている。ADH、ALDHの遺伝多形は標準的な検査法を用いている。データは交絡因子で調整し回帰分析で分析した。</p> <p>結果： 自己回答式飲酒量は有意にALT、MCV、HDL、血圧の上昇と関連していた。ALDH1b ala69val 変異体は無飲酒・総飲酒量と関連していた。ALDH2プロモーター変異体は暴飲とALDH1b1 ala69val多形は拡張期血圧と関連していた。どの遺伝的多型と飲酒量の間にも、どのアウトカムにおいても、統計学的に有意な相関関係は見られなかった。</p> <p>結論： この白人集団においてエタノール代謝の遺伝的多型が飲酒習慣に影響するかもしれないという根拠を見出したが、遺伝・環境の相互作用は統計学的には見いだせなかった。これらの結果を確かなものにするために、もっと大規模な疫学調査と飲酒の効果の遺伝的感性を調べる更なる研究が必要である。</p>	